



(教育・学習機会の充実－2)

伊丹育ち合い(共育)プロジェクト
(伊丹市立伊丹高等学校)
<http://sns.itamachi.jp/>

【概要】

「若者が地域に根ざした活動で本気になれば、地域が活性化できる」という仮説を実証的に実践した取り組みです。リアルな実活動としての社会活動と、学校と地域社会とをつなぐ仕組みとして地域SNS(「いたまちSNS」)を導入・活用し効果を上げています。全国でも希少な教育現場への地域SNS導入事例です。地域SNSを活用し実活動を補完することで、生徒の自発性を生み出し、その意欲に触発され地域が変わっていくことを受けて、「伊丹育ち合い(共育)プロジェクト」と名付けています。

【コラム】

本プロジェクトは、若者が自己肯定感を持てず自信を失っていることに対して何かできないかと考えました。平成15年度から高校全校で実施されている新しい教科である情報科の授業として、地域活性化を場とし情報社会に適応する力(社会人基礎力)の育成をねらって企画しました。

地域での学びには、多くの人的ネットワークという環境が得やすいという利点があります。生徒にとって学校内だけの関係だけではなく、地域の多様な人との関わりを持つことによって、想定を越えた多くのことを学ぶことが可能となります。特に、商店街におけるイベント(ハロウィンパーティ)の場で、店主や地域の方々との共同作業を通じて、人との繋がりや信頼・絆を体得しています。高校生以上に、この活動を通して地域の大人たちが自分の育ちを実感できており、キャリア教育として地域の活性化に繋がると考えます。

この育ち合う地域活動を支えているのが「いたまちSNS」です。平成19年度から活用を開始しており、現在会員数が2,213名(高校生720名、卒業生842名、一般651名、平均年齢が23.6歳:平成25年1月7日現在)。ハロウィンパーティを企画運用している9月・10月では、メッセージ4,728件(346人)、コミュニティピック閲覧総数24,433件、コミュニティ返信数3,090件(305人)でした。

プロジェクトの効果としては、このプロジェクトに関わった卒業生たちが、地域活動を通じて高校生徒を支援しています。また、ハロウィンパーティでは、5歳で参加した子どもが、9年後に今度は高校生として企画する側に立つというような、時間を超えたつながりが生まれていることです。伊丹に愛着を持ち、家族のような見返りを求めない人のつながりが生まれつつあります。

(取組みイメージ図)



(問い合わせ先)

伊丹市立伊丹高等学校 畑井克彦

TEL: 072-772-2040 e-mail: hata3000@itami.ed.jp